

イハカ
ツカ
ト

蜂

内田百間

本文もおぼろげに39うま精土だんぐみ
一頁廿一行

秋になると蜂の子に不自由しないが、土用の内はなかなか手に入らない。たまに小鳥屋に蜂の巣が来ても随分高いので、子供の時、田舎の家の倉の軒や、庭樹の枝にいくらでも巣を、しこのた事を考へると、お金を出すのが馬鹿馬鹿しい様を気もするが、暑さに弱つてゐる鶯やみそささいに食^はべさしてやり^はない。小鳥屋にさう云つて頼んでおくと、速達の小包で送つて来る事がある。すぐに得意先は届けてしまはると、一日小鳥屋の店に置りても、その間に巣の中の蟲がいくつも蜂にまづて飛び出してしまふから、それだけ中身がへつて賣りにくくなる。それで速達などにして送つて来るのだが、さうして小包になつてゐる半日ばかりの間にも、外の時侯が暑いので、中の蟲はいくつも蜂になつて、巣の